



癃閉奏功一例

千葉県 誠心堂薬局 薬剤師

松島達也

千葉県 誠心堂薬局 中医学アドバイザー

楊 琰

■はじめに

癃閉とは、小便量少不暢，少ししか出ない，甚だしい場合は閉塞不通を主症状とする疾患である。急に発病することもあるが，徐々に悪化しながら発病することもある。少腹が脹ることもあるが，脹らないこともある。病情が重篤な場合には頭暈，頭痛，悪心，胸悶，喘促，水腫や，甚だしい場合は神昏などを伴うこともある。

癃閉という名称の最初の出典は『黄帝内経』である。たとえば『素問・靈蘭秘典論篇』では「膀胱者，州都之官，津液藏焉，氣化則能出矣」（膀胱は水が集まる州都の官であり，津液はここに貯蔵され，氣化によって排泄される）という記述がある。

本病を弁証するには，まずは虚実を弁別しなければならない。湿熱蘊結，濁瘀阻塞，肝鬱氣滯，肺熱氣壅によるものの多くは実証，脾氣不昇，腎陽虧虚，命門火衰により膀胱氣化不及によるものの多くは虚証に属する。

今回，病院にて神経因性膀胱による排尿困難と診断された症例に対し漢方治療を行った結果，良好な治療結果を得ることができたので報告する。

■症例

患者：Y.Sさん 女性 47歳 会社員 平成22年1月4日初診

主訴：排尿困難，半月

現病歴：昨年12月14日から1時間に1回尿意を感じトイレに行くと少量の尿が出る
尿は出にくく，排尿痛（+）頻尿感（+）下腹部の張りを感ずる。

病院でのエコー検査と尿検査で異常が見られず、細菌（－）、血液検査でヘモグロビンが低い以外は正常値を示し、神経因性膀胱による排尿困難と診断された。病院治療として管で尿を出し、ウブレチド錠 5mg 1日1回1錠、フロモックス錠 100mg 1日2回1回1錠、セルベックスカプセル 50mg 1日2回1回1カプセルを服用したが、症状の改善が見られず心療内科を紹介された。本人は自分の心の問題ではないと思っており、ただ体調が悪く、西洋治療も出来ないため、どうしようもなくなり、来局相談した。

体調的には尿意が頻繁、残尿感があり、尿が出にくく量が少ない、排尿痛、下腹部の張り痛み、頭が痛い、めまい、痰が多い、面色皓白、下半身がひどく冷える、足が浮腫みやすい、首筋がこる、肩こり、背中痛、動悸、息が切れ、不眠、食欲があまりない、便秘ぎみ、舌質淡白、苔白膩。

精神的には人間関係のストレスが大きい。

既往歴：子宮筋腫、貧血

家族歴：特になし

辨証論治：腎陽虧損、心肝気虚

治療原則：温陽益気 補肝心腎

方 剤：八味地黄丸 甘麦大棗湯 7日

第2診：平成22年1月11日

尿がでる、残尿感（－）排尿痛（－）、食欲正常、便が正常、舌質淡白苔が略白膩。

処 方：八味地黄丸 甘麦大棗湯 14日

第3診：平成22年1月25日

排尿が正常、頭痛もない、睡眠も良い、痰がやや、首がこりと背中痛も良くなり、食欲正常、便が正常、舌質淡白、苔が薄白。本人はこんなに早く調子が良くなるなんてと喜んだ。

処 方：八味地黄丸 甘麦大棗湯 21日

第4診：平成22年2月15日

排尿が順常，体調が良い，食欲正常，便が正常，職場に復帰した。

■考察

この症例は主に腎陽虧虚，命門火衰により膀胱気化不及したものなので，主に虚証に属し，症状としては尿が排出無力，面色晄白，畏寒などがあった。仕事場でストレスが強いので，首筋がこる，肩こり，背中痛，動悸，息が切れ，不眠，食欲があまりない，便秘ぎみ，舌質淡苔白といった心肝気虚の症状も現れていた。治療原則は温陽益気利小便，補肝心腎，処方としては八味地黄丸，甘麦大棗湯を用いた。

八味地黄丸とは温補腎陽，化气行水することにより，小便を通利することができる。甘麦大棗湯は心気を養うと共に肝気の虚も補して，三焦の水液の運化及び膀胱の気化を正常に戻し，小便の排泄をスムーズにする。

各々の生薬の効能が効いて，病状は好転して，最後完治することができたと考える。

■参考文献

- 1) 監修路京華・陳志清：『中医内科学』，たにぐち書店，P362-370
- 2) 滝野行亮，埴岡博共著：『薬局製剤 漢方 212 処方の使い方』，薬事時報社，P41，P197